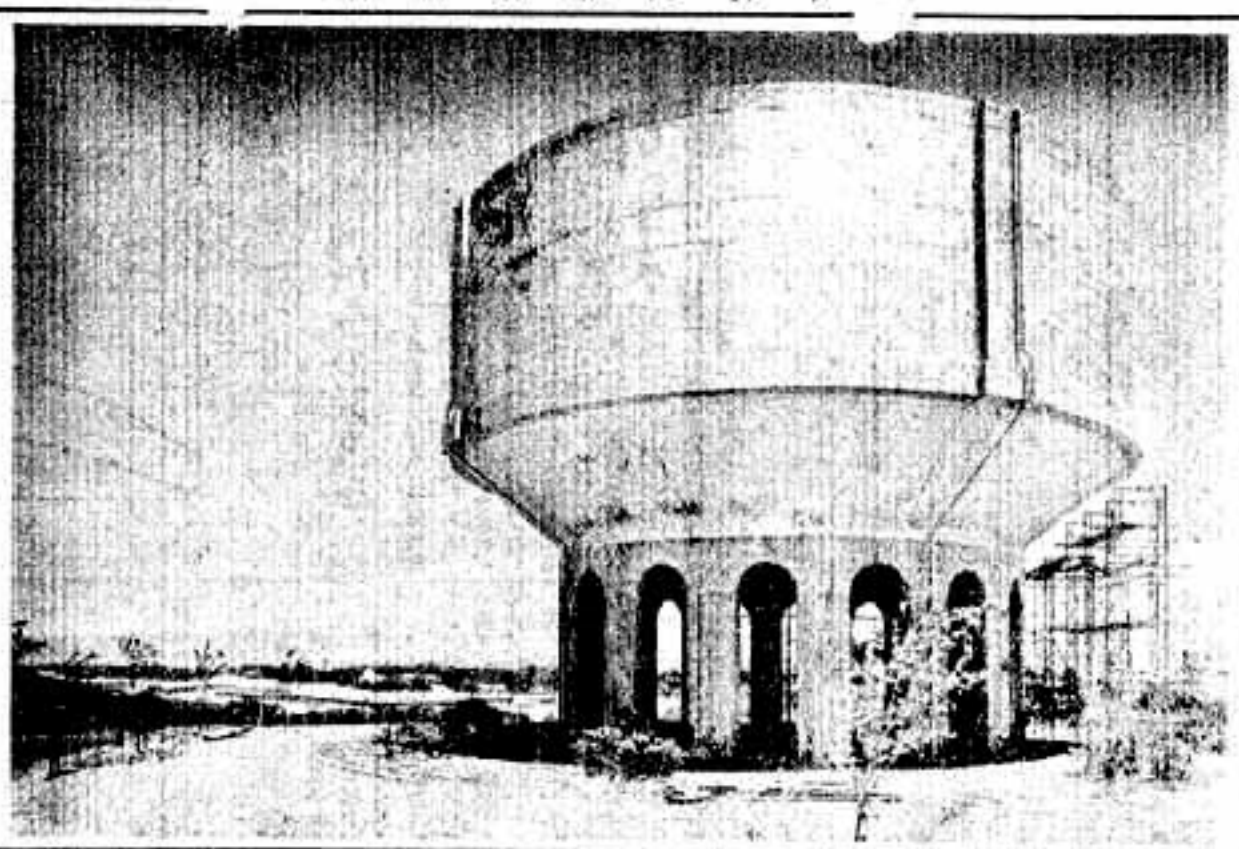
あけまして おめでとう ございます

昭和四十四年元旦



町政だより

福岡県筑紫郡
発行所　春日町
電話㊀1131番
印刷所　福岡印刷株式会社

町長年頭の挨拶

昭和四十四年の新春を迎え、町民の皆さん明けましておめでとうございます。

戦後二十三年余を経て、地方自治の基盤もほぼ確立されたかに思われますが、反面、地方財政においてはいまや重大転機に立っています。戦後永い間停滞していた地方財政はようやくその苦境を脱したかにみえましたが、最近の社会経済の急速な発展に伴って生じたいわゆる過密、過疎のひずみに対処するための新しい事業を山積みしているのです。春日町もその例にもれず、福岡市をはじめ、近隣のめざましい発展とともに過密地区としての種々の問題をかかえています。この事態に対応するため、社会資本の投資をとりもどし、行政水準の高揚をはかり、将来の「町づくり」の大事業を一日も早く完遂しなければならない重大な時期だと考えるのです。

過密より生じる問題として、小中学校の児童・生徒の激増に対処する学校新設および改築、じん芥、し尿施設などの衛生拡張、上水道の拡張、公共下水道の新設、都市計画事業など幾多の事業を山積みしています。これらの諸問題を解決するためには、広域的には県地に立ち、長期的、計画的にその実施に取り組まなければなりません。

四十四年度には、これらの諸事業のうち、緊急かつ必要度の高いものより着手あるいは準備計画に取りかかる処存でございますが、何と申しましても、これらの諸事業は町民一致のご協力、ご援助なくしてはできる事業ではありませんので町民皆さんの格別のご支援をお願いしまして新年のご挨拶に替えさせていただきます。

（春日町長　秋枝徳男）

議長年頭の挨拶

輝かしい昭和四十四年の元旦を迎えまして心から新春の慶びを申し述べる機会を得ましたことは、私の最も光栄とし、喜びに堪えないところであります。町民の皆さんおめでとうございます。

旧年中は国際情勢、国内問題など数限りなく種々の問題がありました。激戦を展開されたベトナム戦乱もしばらく解決の方向に向って前進のきざしを見せて参りましたし、神武初の宇宙公園も済んで日本復帰へ一歩前進の栄光の見えました事は国民として喜ばしい限りであります。

本町も、近年は福岡都市圏の一環としての地理的好条件が恵まれ、発展の一途を遂げつつありますことは衆知の通りであります。山野は随所に宅地化され住宅の建設が行われております。一面発展に即する諸施策もまた、これに比例して起って参りますことは申すまでもありません。

学校教育問題、道路建設、環境衛生の問題、その他、町民の福祉につながる諸施策が緊急の差、緊要の度はありましても、数限りなく残されております。特に学校問題については、目下のところ春日小、春日北小学校の鉄筋改築工事を二ケ年継続事業として本年度分の工事を実施いたしております。春日東小学校は増築工事を継続中でありますが、春日小学校においては収容児童が飽和状態にあるため第五小学校の建設問題が焦点となっております。建設位置、敷地買収といった重要懸案がありますが、早く解決して建設ができるよう関係各位の大きなご協力、ご支援を望むしだいであります。

次は本町の宿命とでも申しますが、福岡市に隣接している関係から将来考えられます市との合併、隣接町との合併、あるいは、単独市制といった事が必然的に起っていることと思考されます。何れになるかは、今後の議会の検討に待たねばならないと思いますが、要は町民福祉を優先したものであることは論を待たないものでありましょう。本町の発展を期して町民挙ってのご協力を仰がねばならないと思います。よろしくお願い申しまして新年のご挨拶といたします。（春日町議会議長　鬼倉政徳）

躍進する春日町

春日町は福岡都市圏の一環として、近年目ざましく発展しています。春日町では「明るい住みよい町づくり」をモットーに、学校建築、道路、環境整備など町民の福祉向上に努力していますが人口急増により変ぼうする春日町を過去から現在への変遷、そして新しい町づくりの胎動となるようなあらましをのべてみよう

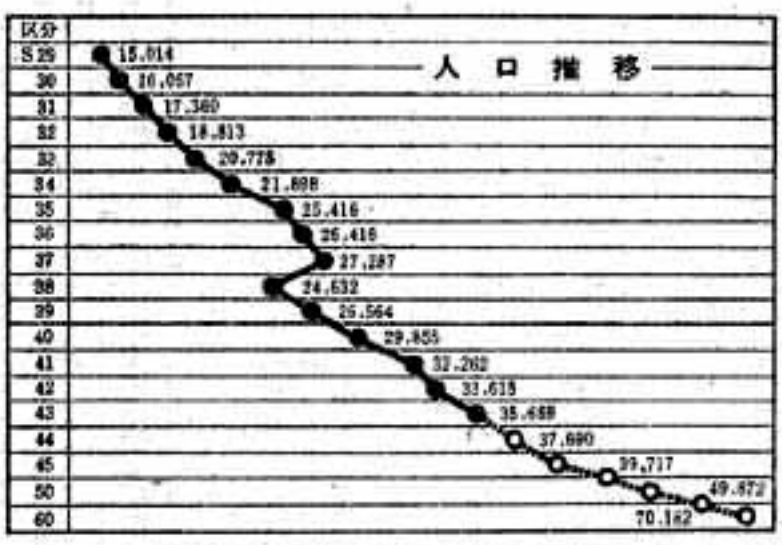
住宅地に必要な環境整備

〔人口〕

今から五十年ほど前（大正五～六年頃）までの春日町は戸数三百六十、人口二千九百人たらずの農村であったが、近年、福岡都市圏の膨脹により、人口の流入が激しく、丘陵地帯の宅地造成や、農地転用などによる住宅建築が年間五百～六百棟建築され、急激に町の様相に活気を帯びはじめた。

現在人口三万六千七百五十四人（昭和四十三年十一月三十日現在）・毎年約二千人増加している。これは市年間増加にくらべ、二千八十五人、六・一パーセントの増加で、将来の推計人口では昭和六十年には現在人口の約二倍の七万人を越えるものと推定される。

今後は、日本経済の高度成長に伴ない個人の生活体様の変化は、行政サービス要求の水準向上、ならびに



総合的な町づくりを

〔基盤整備〕

・土地利用計画の確立

急速に進行しつつある都市化現象に起因する種々の問題（通勤難、交通難、スプロール、地価の高騰、住宅のスラム化）など、土地利用計画の確立は、春日町百年の大計のうえにも最大の課題となっている。

人口や産業が集中するに伴し、土地利用のコントロールがないため、土地開発が地価の動向に引き回わされ、各々の目前の計算のみで勝手に立地を選定し、結果的に大きな損失を招来する。

そこで土地利用の計画は市街化の速度に合せて、都市整備を先行的に整備することが必要になる。

土地利用計画は、経済、文化などの諸活動が合理的に発揮できるとともに、固有の活動を支える生活環境を良好に保持するための総合的な町づくりです。

・国土調査の実施

土地利用の変化、および字図、台帳の整備をはかるため、施行区域の大小にかかわらず、可能な区域について、順次、土地区画整理事業を実施する。

街路計画の設定

〔道路〕

産業経済の発展とモータリゼーションの伸展により現在の道路網や道路市況では急増する車輌などの交通渋滞に対処することができないし、また、未開発地域の開発を促進するための道路整備、新たに出現する宅地造成地域の道路網の整備などの対策として、道路新設、改良、舗装などに積極的に取り組み、広域的立場から、福岡都市圏との諸計画ともかみ合せ、街路計画の設定をはからなければならない。

多様化に対処し、一方、さらにますます過密化していく地域の将来の展望に意を配り、先行的事業の積極的採択を必須とする重大な時期に直面しているものと思われる。

このような状況に鑑み、地方公共団体の指名を認識し、生活環境の整備に取り組まなければならない。

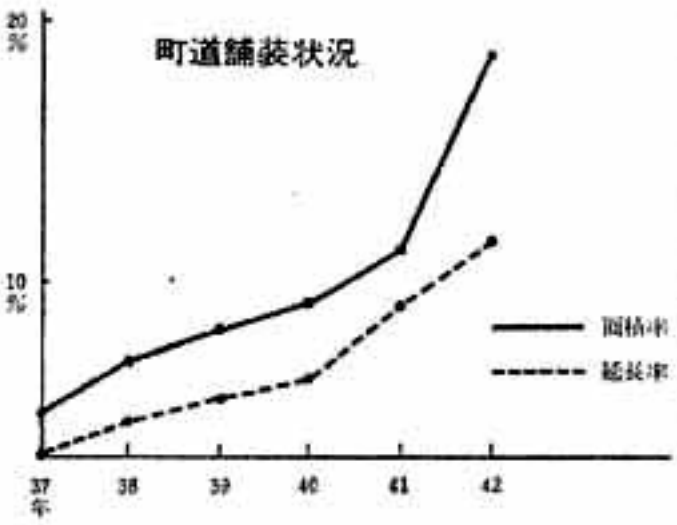
児童・生徒の交通禍からの保護を

〔交通安全対策〕

都市に隣接する春日町では都市と郊外とを結ぶ主要な立地条件下にあり、また産業経済の伸展による交通量の増大に比例し、本町内における交通事故は今後ますます度を加え、交通事故多発の現象が顕著である。

これらに対処するため、施設の拡充をはかり、とくに児童・生徒の交通禍から保護を重点的に採りあげ、交通安全施設の整備をはかる。

春日北小学校前横断歩道橋



一日最大給水能力八千トンに

〔上水道〕

生活様式の近代化および発展途上の春日町は宅地造成、市街地開発により、水の需要は急速に増大するものと考えられる。

本町では十分な水を確保するため、第二次拡張計画に取り組み、この事業の竣工後は計画給水人口三万二千人、一日最大給水量八千トンの給水ができ、昭和五十年度までは、本施設で給水が可能である。

昭和五十年度以降の給水計画については、水資源開発公社が計画している筑後川の取水が考えられる。

じん芥処理場

〔環境衛生〕

清掃部門におけるじん芥処理、し尿処理は一部事務組合の設立により、共同処理を選択し、基礎的設備を終了した。

今後は生活環境整備の充実を図り住民の要望に応って、清掃行政の効率化と運用面の拡充をはかるとともに、人口急増、食生活の改善などによる処理物の増加に対処すべき処理施設の拡充、公共下水道の完備、保健衛生部門の充実などを考慮しなければならない。

〔民生〕

・社会福祉

住民の幸福な生活を、また、住民の生活の安定を確保する社会福祉の主旨に基い、社会福祉協議会が中心になり、福祉事業を行なっているが、今後の課題は内職センターの強化、将来仕事を身につけて自立できるような授産施設の設置、共働き世帯の増加により生じる保育所の新設および「かぎっ子」対策、児童の健康増進、情操教育、そして交通事故防止からくる児童館、児童公園の増設などがある。

・社会保障

医療保障の国民健康保険、所得保障の国民年金が社会保障の主要事業となっているが、国民健康保険は医療費の値上げからくる、財政難化をまねき、赤字補填として一般会計からの繰入金に頼っているが、今後は国保運営の主旨からして、繰入金の額が多額にのぼらぬように配慮し、効率は周辺市町村と平行するようにする。

国民年金はそのほとんどが国の施策に基くものだから、国に対し、積極的に年金給付額の引き上げを要請する。

第五小学校建設へ

〔学校教育〕

急速な人口増加に平行し児童、生徒数の激増に対処するため、毎年小中学校の増設、改築につとめてきた。

昭和四十三年度は三校の鉄筋改築工事を進め、この工事が完成すれば春日町の小中学校は全校舎鉄筋化される。また教育施設の充実を目標に各校にプール、体育館をつくるなど多額の費用を投入し、つねに、町財政のトップを占めている。

青少年教育の充実

〔社会教育〕

急速に都市化する経済・社会の変化は、住民の意識や自治意識の低下などさまざまな問題を生じている。これらの課題に対応し、生涯教育を行なうのが社会教育の重要な役割です。

春日町では中央公民館を中心に、町内公民館その他各機関団体と密接な連けいのもとに、学習、体育その他の活動を展開している。

婦人学級では家庭の主婦としての教養と生活技術を、青年学級では自主性や社会性を高めるために、家庭教育学級ではこどもの健全な育成を願って、それぞれ年間教育に沿って学習している。

また、町民体育祭では、親子そろって運動場や体育館を駆けまわり、町民が相互に結ばれ、そこから新しい町民連帯意識が生れつつある。

今後の方向として、青少年教育と高令者学級の充実をはかるべきであろう。特に現在の青年団のあり方を時代の変化に即応した体質改善をはかり、地縁的な団体成から職能的目的別の集団編成に改め、団体活動の中核となる指導者の養成に努める。その他「かぎっ子」対策として地域別に組織してグループ活動などを実施し心身ともに健全な教育をするように努めなければならない。

春日町はこども達が将来いて勉強できる教育環境をつくりだすことを町政の大きな課題にしている。

今後の課題は、義務教育施設の新設を考慮するとともに、就学前教育にも力を注がなければならない。

〔産業〕

・農業

都市化の現象と青農業部門の急速な成長発展の影響をうけ、農地の宅地化傾向が強く、耕作耕地の縮少、および農業従業者の減少をまねき、農業は過疎状態です。今後は大消費都市福岡市や周辺町の人口増加による消費需要に着眼し、主幹作物あるいはそ菜農業の選択をするとともに、農業経営、農業労働の合理化をはからなければならない。

・商業

都市化が進むにつれ、消費人口の増加をみ、小売業を中心とした商業が発展し町内の人口集中地区のいたるところに活発なあきないが行なわれ、特にメインストリートというべき西鉄春日原を中心にした地域において、急速な発展をみることができる。

商業活動を発展ずり、町内中小企業育成のため、「預託金制度」を実施し、「商店街診断」の実施が考慮され、また、消費者保護の立場から「計量モニター」の調査が実施されている。

今後は、交通の発達、都市型消費への移行により、消費者の購買半径は大きくなり、日用品、食料品についても中枢都市へ購買力は吸収されることが予測される。購買力をくいとめ、また、隣接町の購買力を引きつけるために、商店街の再開発をはかるとともに経営の合理化、近代化、共同化をはからなければならない。

・工業

福岡7二日市線（通称県道五号線）を中心とした地域に中小企業が進出し、中小企業特者の軽工業が発展し、繊維工業、食料品が主体となっている。

また、経営設備の近代化、経営規模の拡大に伴ない、一人当りの製造品出荷額、従業員を四人以上使用する事業所が増加している。工業経営の近代化、経営規模の拡大化をはかるため、「預託金制度」を実施し、この制度の活用により、中小企業者の育成をはかっている。

産業面における工業の振興は必要不可欠のものであるが、春日町の住宅化の方向と工業の集積は必ずしも利害は一致しない。むしろ農業公害、農地公害の点において利害が対立する点が多いので、今後の工業の基本的方向は全体の町づくりの中が設定されなければならない。

セクショナリズムと非能率を追放へ

〔一般サービス〕

行政は常に社会、経済の進展に即応した時代の要求を的確に処理しうる近代的能率的なものでなければならない。

住民の質的行政サービスの向上、公共部門の投資を望む声は高まり、これらの要望に答えるべく、長期的展望に立った計画を策定する必要がある。

・事務改善の実施

一、窓口事務を統合し、数カ所に分散されている窓口を一カ所にまとめ、集中管理を行ない、正確、迅速、そして最小の経費で最大の効果をあげる。

二、従来の課制を改め、課の統合をはかり、部制の見直をする。

課の統合は職員の流動化が容易にはかれ、従来の課・係の職員の繁閑の差をなくし、職員の労働密度を平均化させ、あわせて処理能力をも増大させ、セクショナリズムと非能率を改める。

・総合計画の樹立

春日町の明日を考え、今日おかれている環境、従来の条件などを考慮し、現実の姿から効果的な可能性を見いだし、未来像を具体的に創造する。

役場窓口風景

福岡県警察官募集

福岡県では次の要領にて警察官を募集しますので、希望者は早目に申し込んで下さい。

記

・受験申込受付期間
昭和四十四年一月十日～同月二十五日まで

・受験日
第一次試験　二月二日
第二次試験　二月下旬

・受験地
福岡市、北九州市、久留米市、飯塚市

・受験資格
昭和十七年四月二日から昭和二十六年四月一日までに生れた男子。

・その他
受験についての問い合せは次のところにしてください。

a 福岡県人事委員会事務局（七四―三七三一）
b 福岡県警察本部警務課（七四―二二三一）
c 警察署または最寄の派出所、駐在所